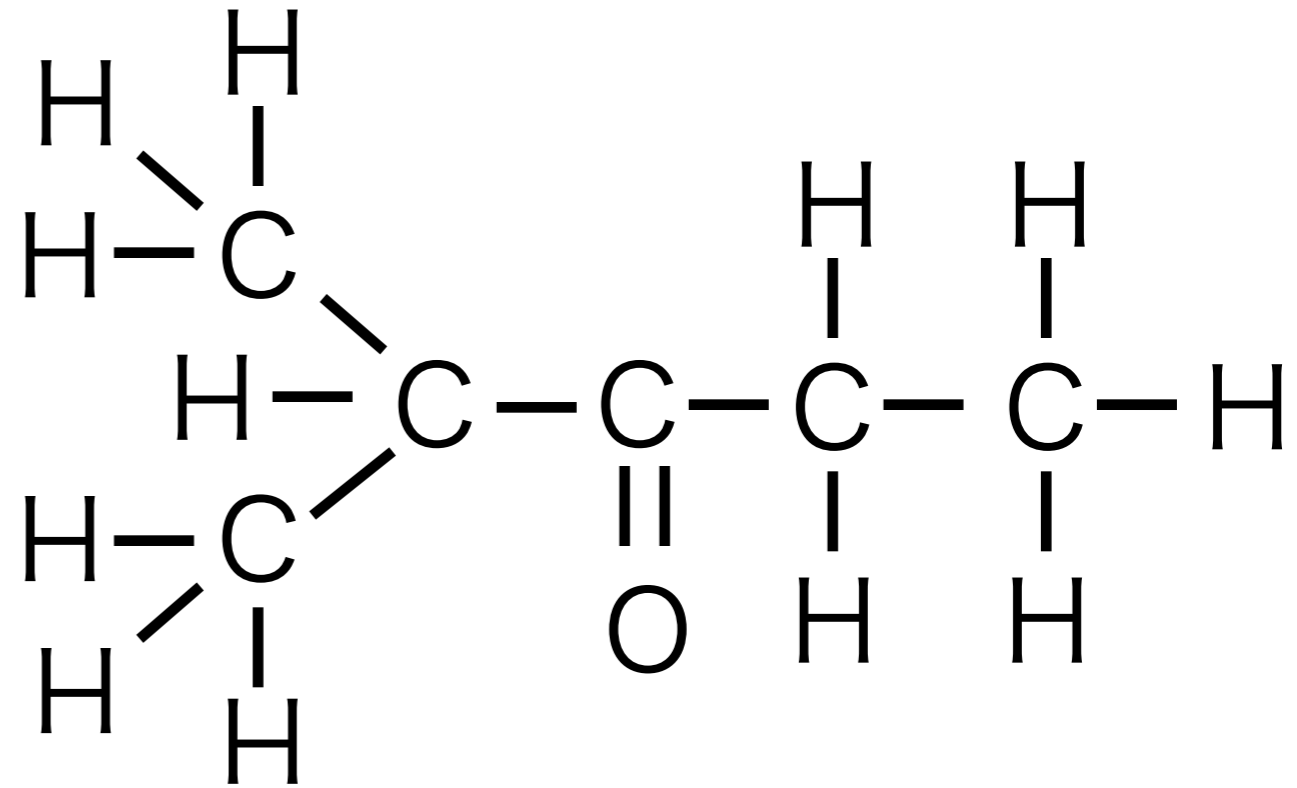
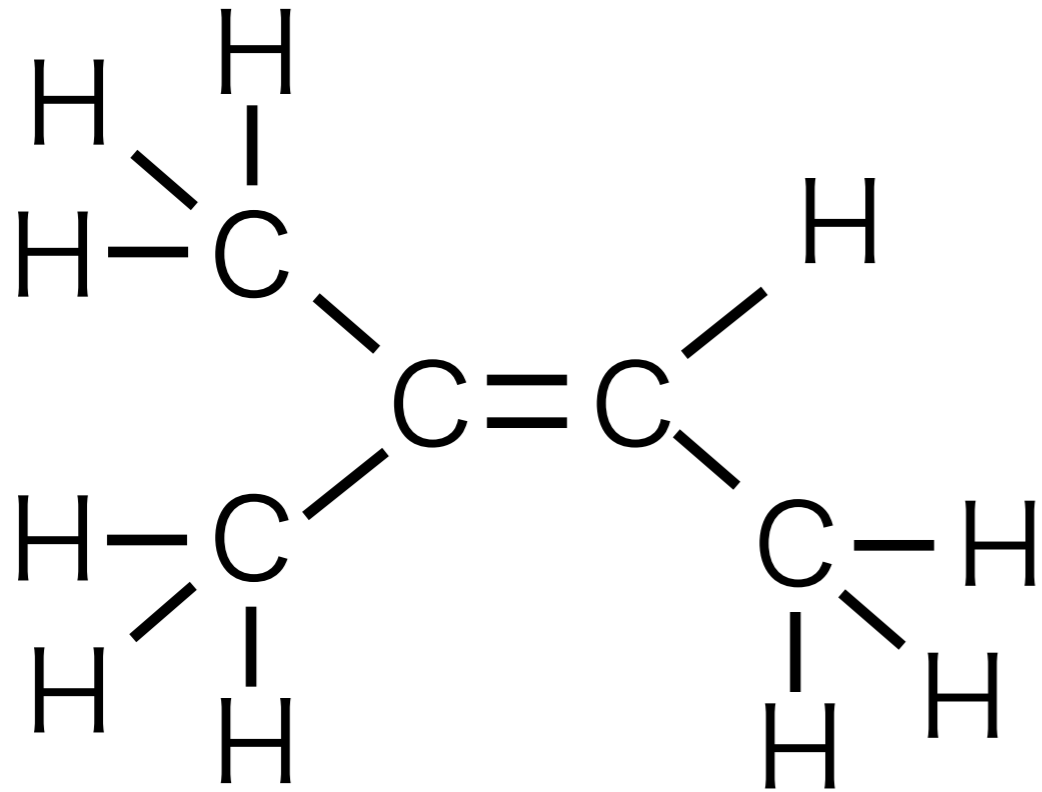


これらの化合物の等価な水素の組み合わせは？



さらに細かいケミカルシフト (p.447を改訂)

試験で¹H-NMR
のケミカルシフトを求
められたらこの表

以下は一般的な数値であり、構造によっては多少範囲を超えるものもある

プロトンの型	構造	化学シフト (ppm)	プロトンの型	構造	化学シフト (ppm)
TMS (基準ピーク)			アミン、アミド 等		
第一級アルキル			アルキニル		
第二級アルキル			モノハロゲン化 アルキル※2		
第三級アルキル			アルコール		
アリル			アルコール、エー テル、エステル等		
アルキルケトン			ビニル型		
芳香族ケトン			芳香族		
芳香族アルキル			アルデヒド		
エステル、アミド カルボン酸など			カルボン酸		

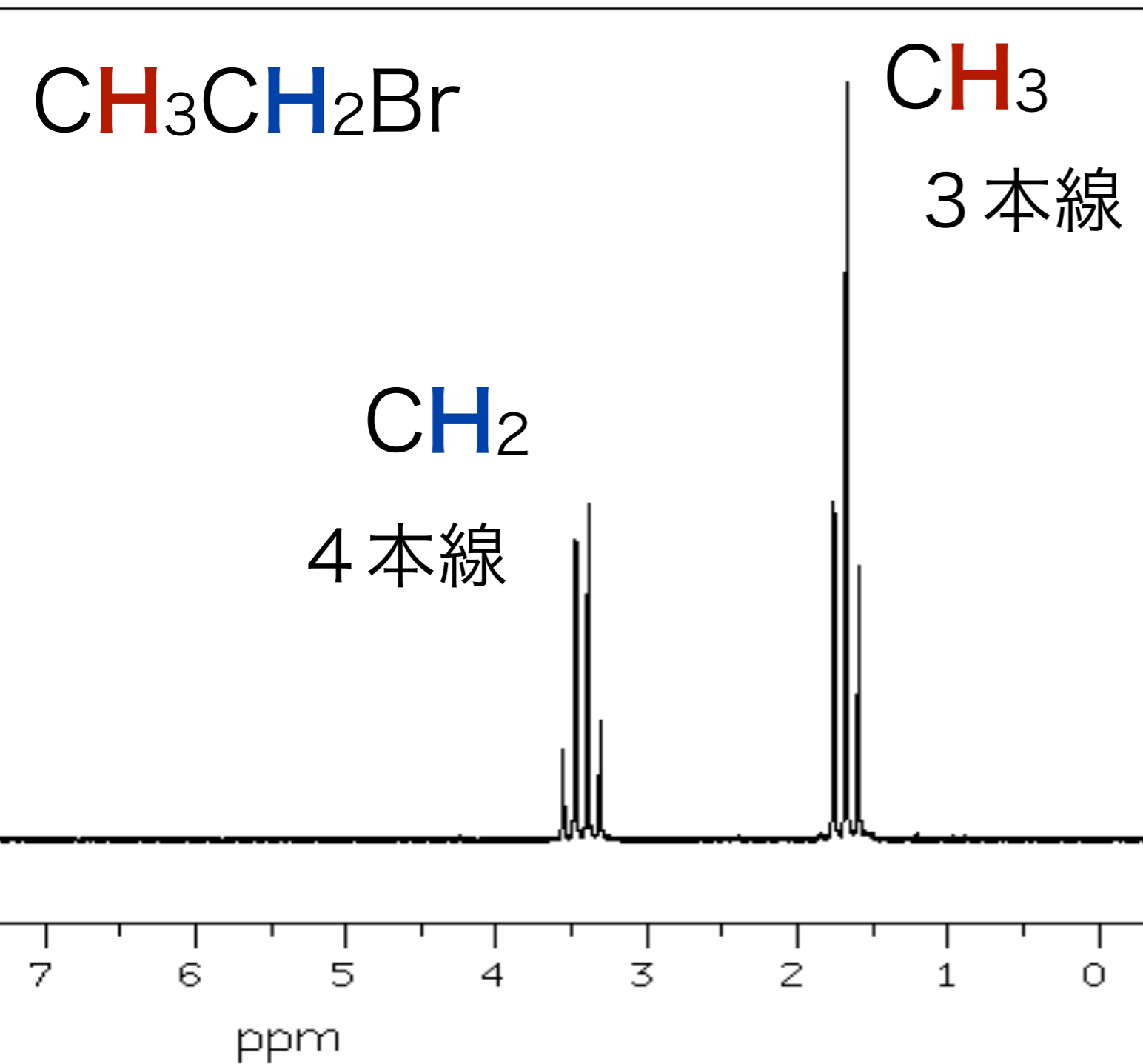
※ R=アルキル R'=アルキルorH Ar=アリール (芳香族)

※2 ハロゲンが複数付くとより低磁場

NMRスペクトルのパラメーター

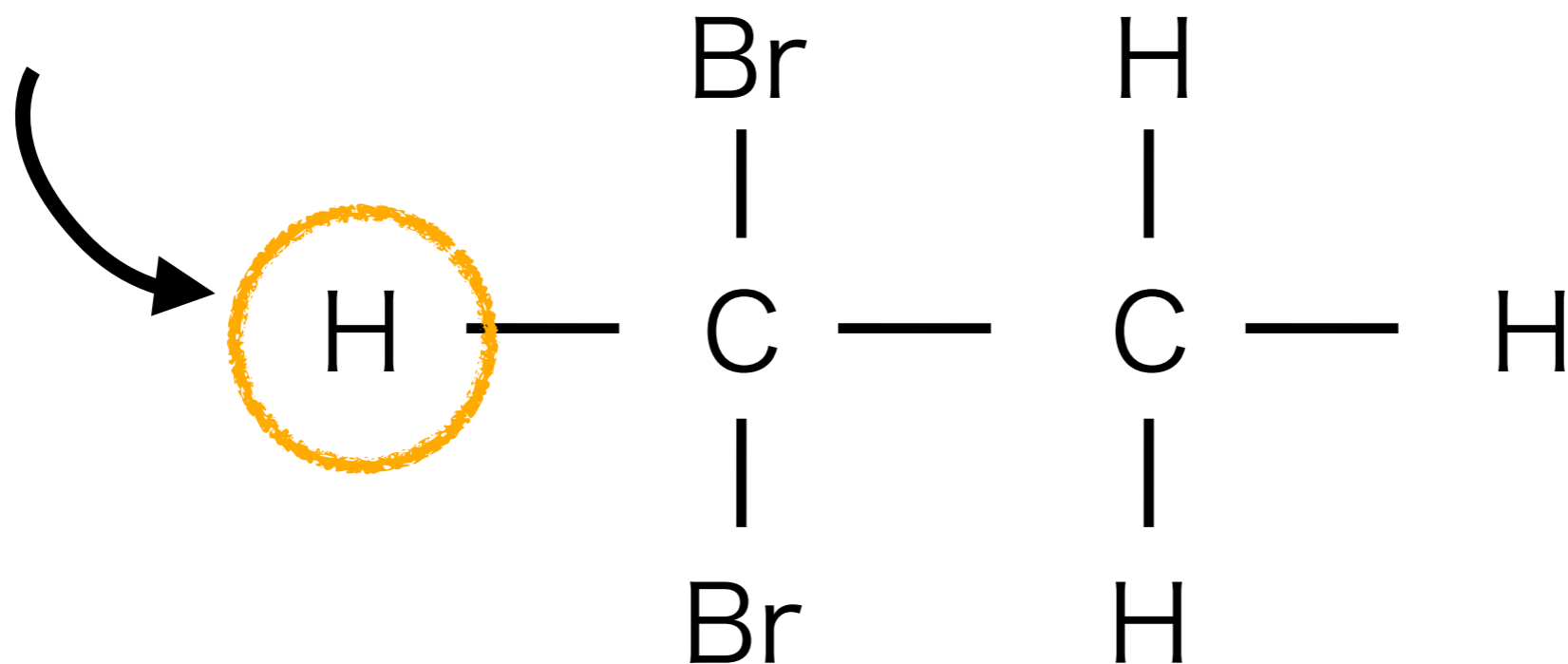
- 化学シフト（ケミカルシフト）
p.449
- 積分比（面積比のこと）
p.451
- カップリング（スピンスピン分裂）
p.452

カップリング（スピンスピン分裂）とは？



隣のグループの水素数ってどういうこと？

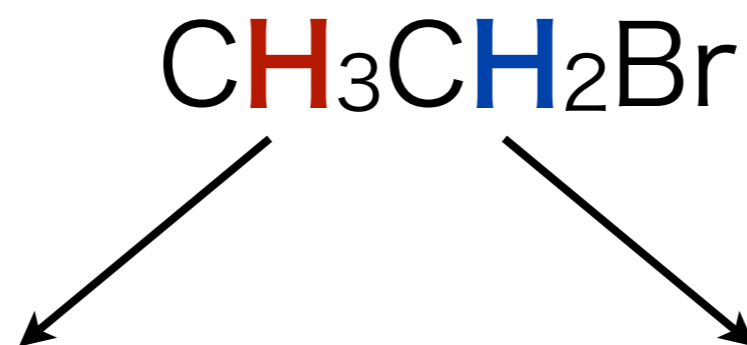
この水素の場合



結合定数と分裂パターン

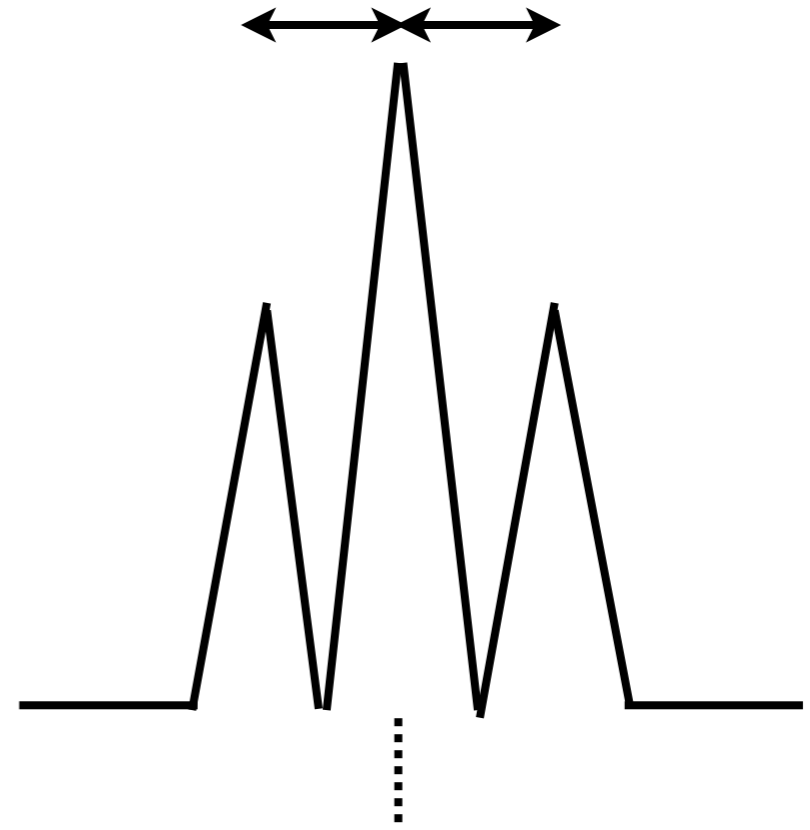
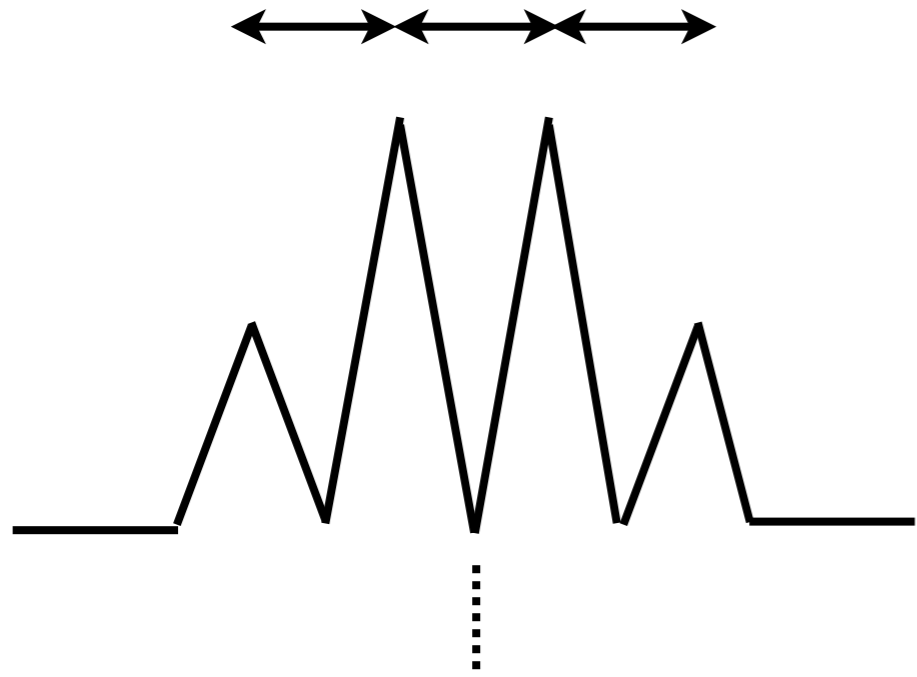
基本的な分裂パターン：隣の水素数 + 1

隣に非等価な水素達がいると
このルールを拡張する
必要があるのでそれは後で



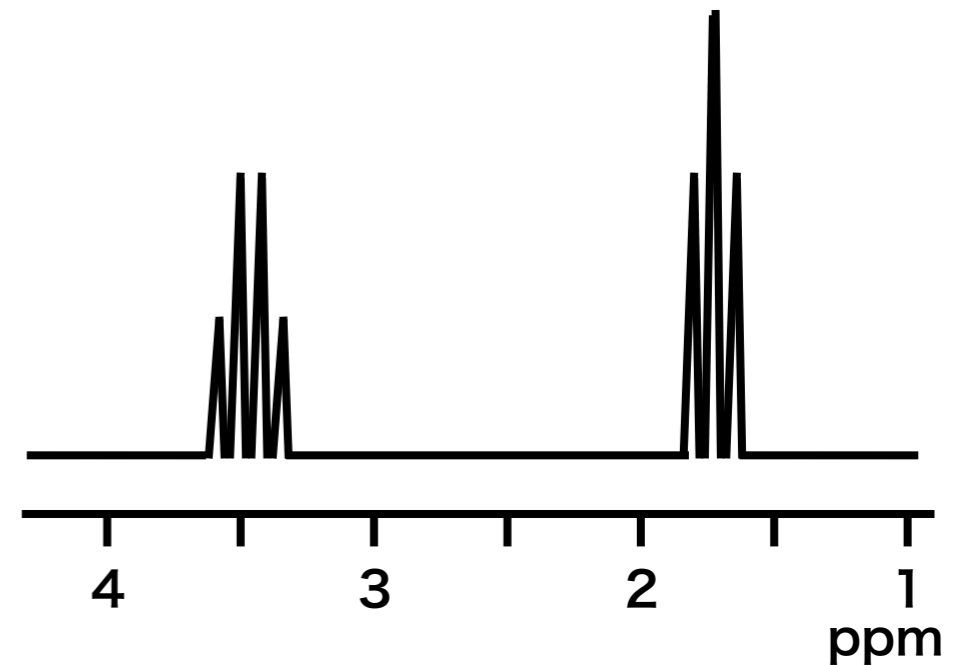
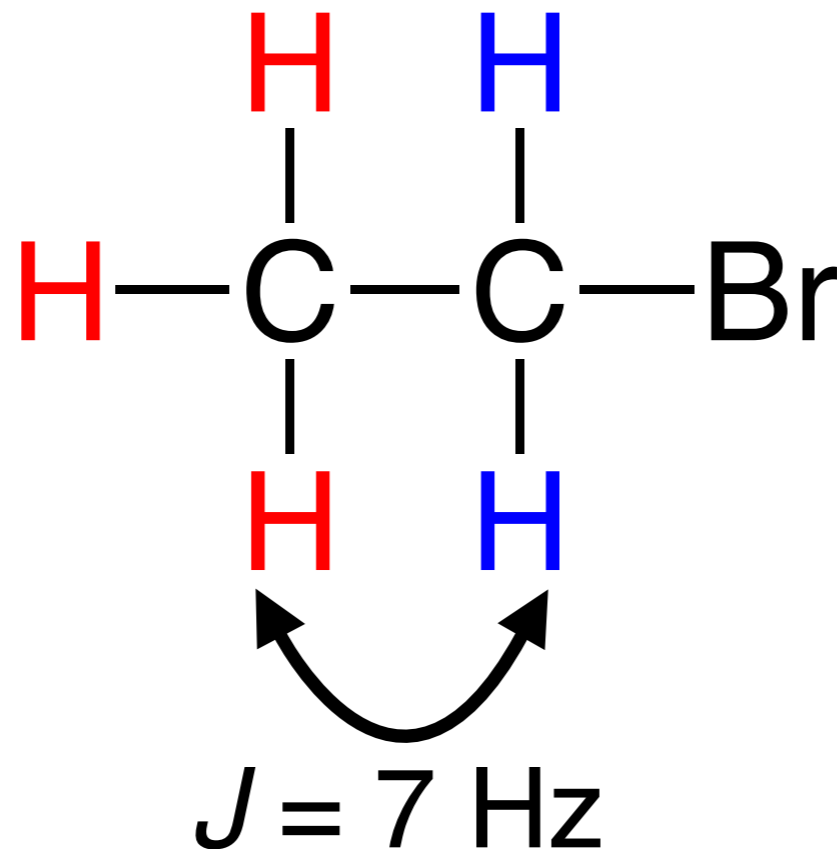
CH₂ 4本線

CH₃ 3本線



結合定数（カップリング定数）

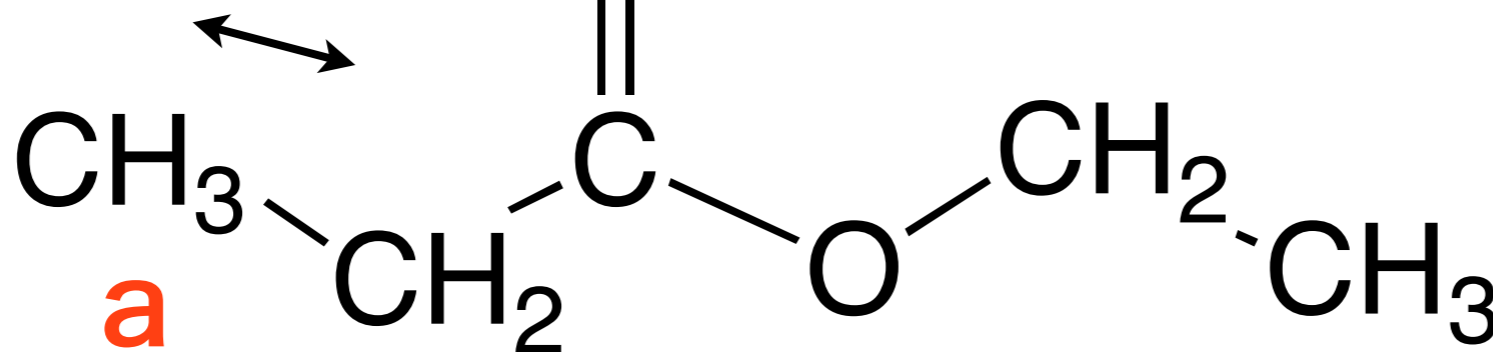
ブロモエタン
の場合



実際のスペクトル上での幅 (ppm) = $\frac{\text{結合定数}}{\text{装置の振動数}}$

400MHzの装置を
使った場合

$$J_{a-b} = 7.6 \text{ Hz}$$



1.14 ppm, t

b 2.32 ppm, q

a

1.14 ppm

+ 7.6 Hz

- 7.6 Hz

$$\frac{-7.6 \text{ Hz}}{400 \text{ MHz}} = 0.019 \text{ ppm}$$

^1H の共鳴周波数が
400MHzの場合

$$1.14 - 0.019 = 1.121 \text{ ppm}$$

$$1.14 + 0.019 = 1.159 \text{ ppm}$$

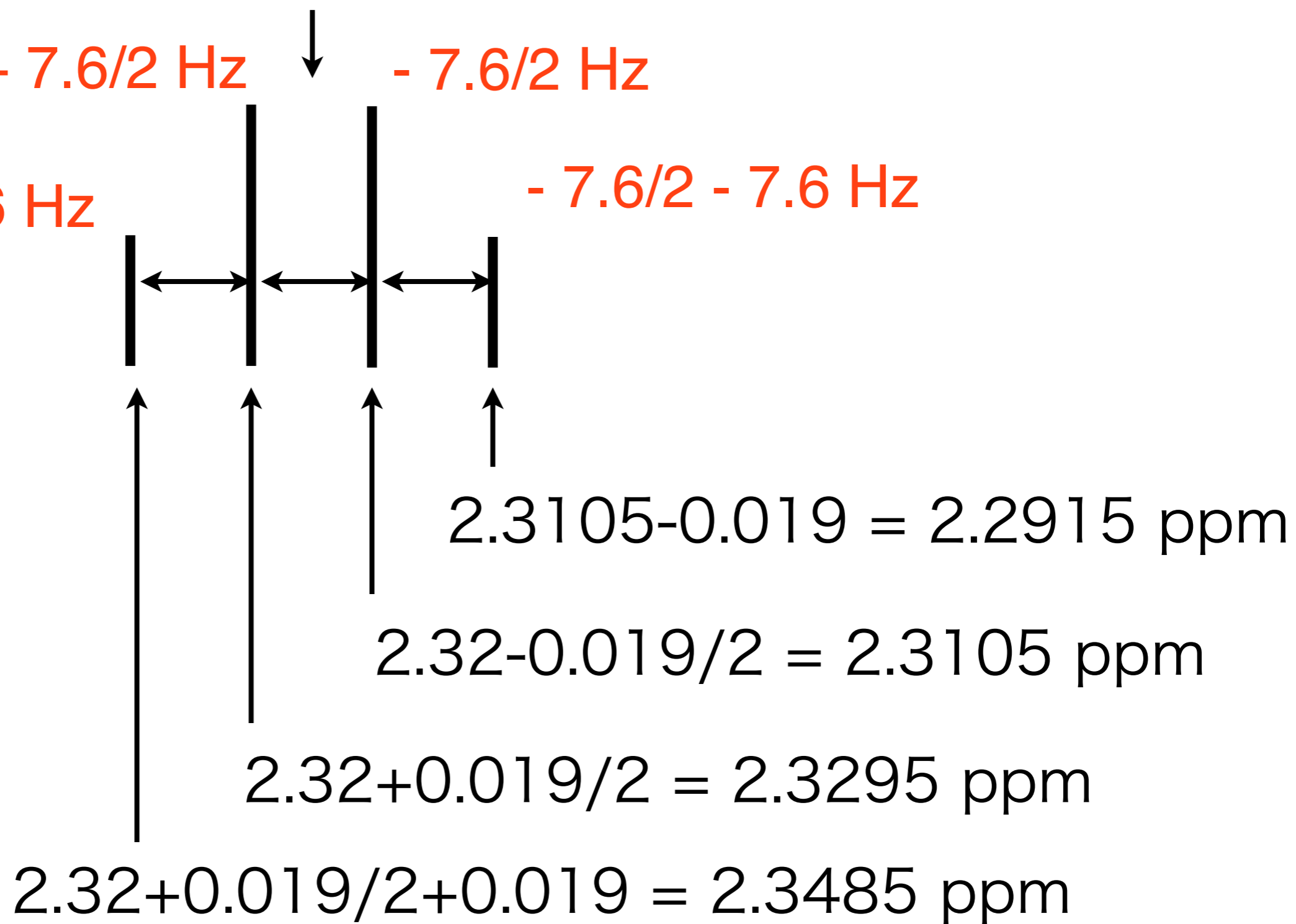
b 2.32 ppm (中心)

+ 7.6/2 Hz ↓ - 7.6/2 Hz

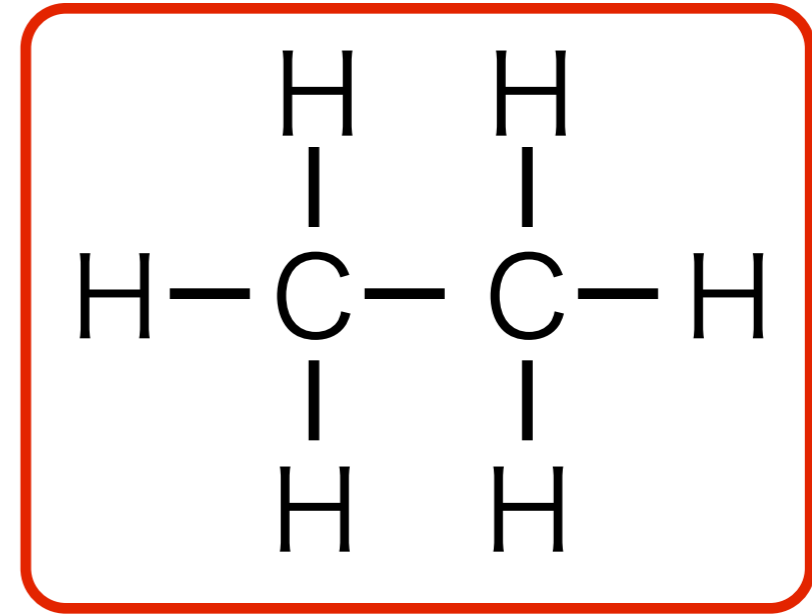
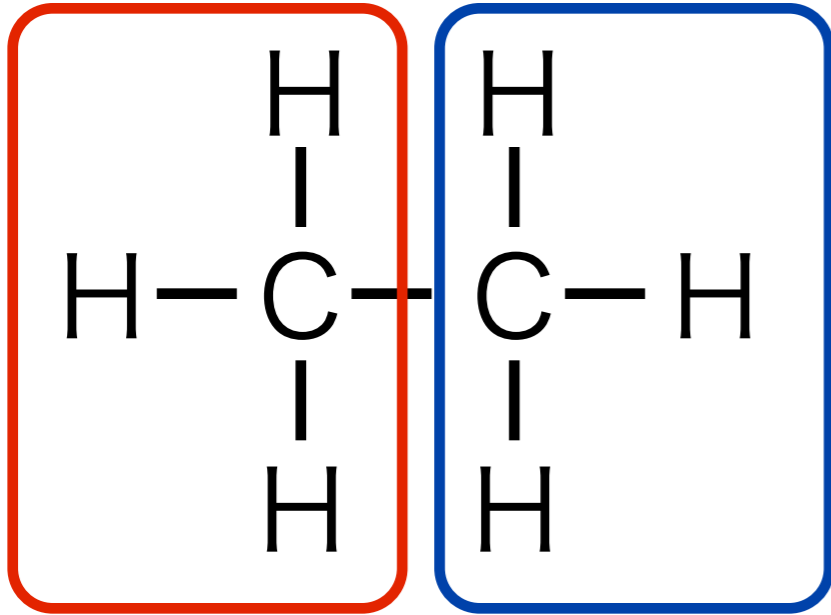
+ 7.6/2 + 7.6 Hz

- 7.6/2 - 7.6 Hz

^1H の共鳴周波数が
400MHzの場合



ではエタンだったらどっちが正しい？



こう考えると、
赤のシグナルが青の3つの
プロトンによって分裂

↓ + 1
4本に分裂

こう考えると、
全て等価なシグナル
なので分裂しない

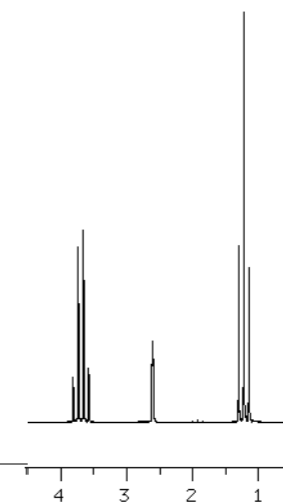
↓
1本のシグナル

活性水素のケミカルシフトとカップリング

アルコール ($R-OH$)、アミン (R_n-NH)、
フェノール ($Ar-OH$)、カルボン酸 ($R-COOH$)など
ヘテロ原子に**直接結合**したプロトンの場合

ケミカルシフト

カップリング



規則 1

規則 2

規則 3

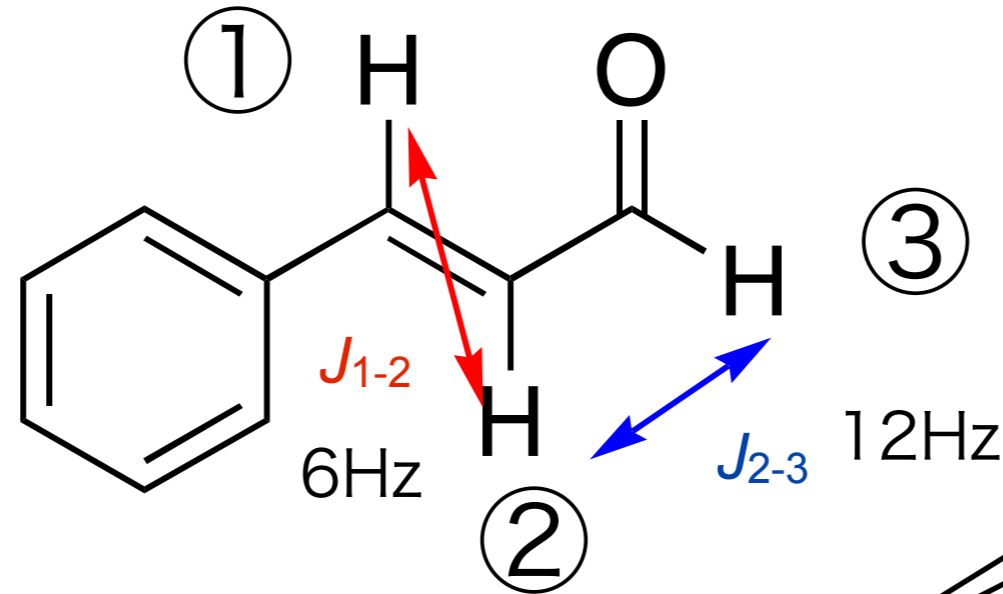
分裂パターンを表記法

隣接する等価なプロトン数	多重線の型	略号
0	一重線	
1	二重線	
2	三重線	
3	四重線	
4	五重線	quin
6	七重線	sep

隣接する等価な
プロトンが2組
ある場合の例
(後述)

二重の二重線	dd
二重の三重線	dt
二重の四重線	dq

ddとかの考え方 (p.454~)



～②について考える～

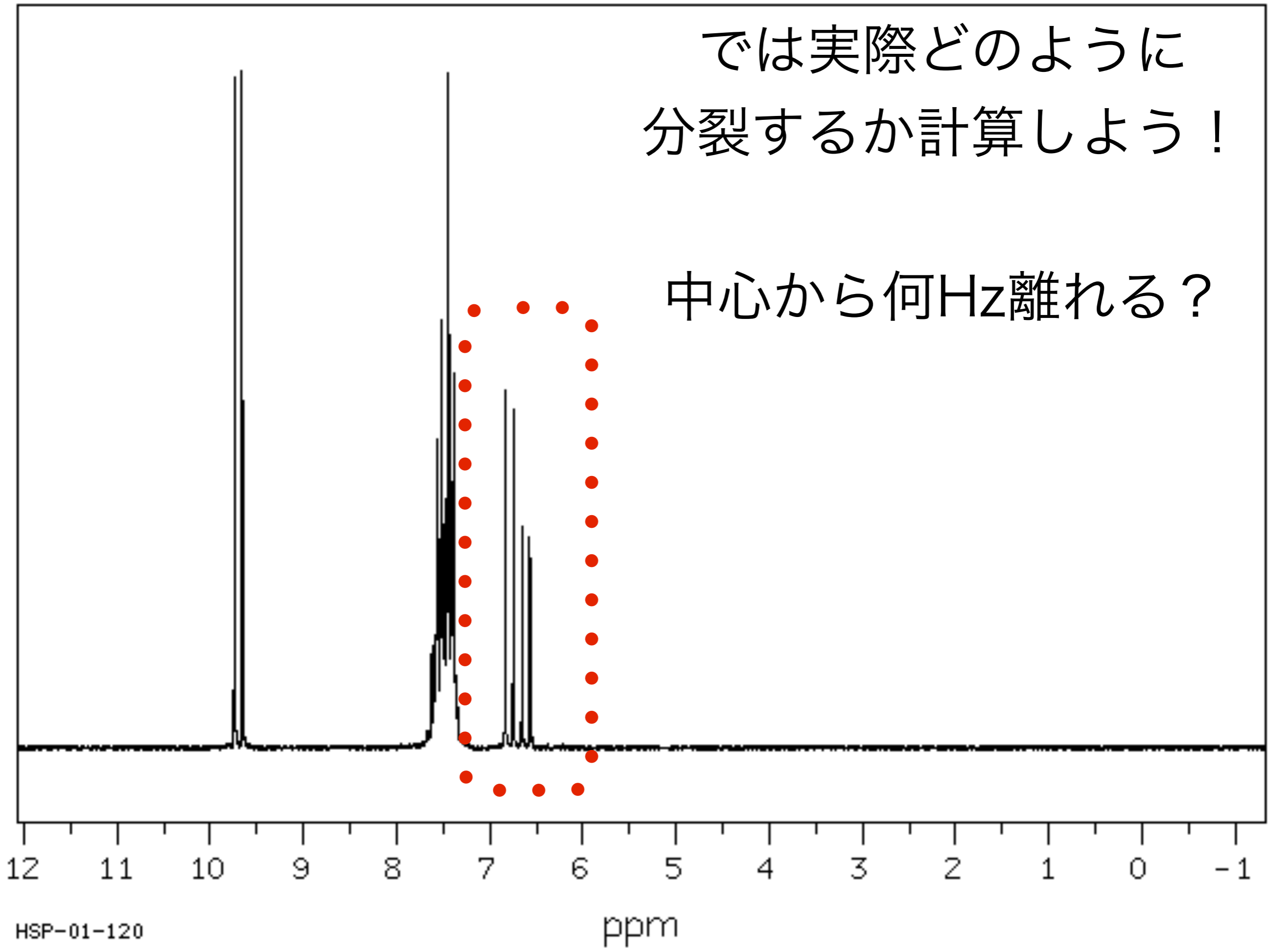
- ①の影響で $1 + 1 = 2$ 本に分裂
- ③の影響でそれぞれが $1 + 1 = 2$ 本に分裂

もっと適当に説明すると・・・

- ミカンを2つに割りなさいと2ヶ所から言われた
- まず2つに割ったあと、どちらかだけをさらに割っても不公平なので、両方2つに割った

では実際どのように
分裂するか計算しよう！

中心から何Hz離れる？



HSP-01-120

500MHz の装置の場合の分裂した各シグナルの ケミカルシフトを計算

↑
6.687ppm

補足：略号等の元

DEPT	distortionless enhancement by polarization transfer
s	singlet
d	doublet
t	triplet
q	quartet
quin (quint)	quintet
sep	septet
br	broad (幅広いピークに使う)
m	multiplet (分裂しすぎて解析できないときに使う)

dt(doublet of triplet)かtd(triplet of doublet)かはアメリカ化学会の投稿規程を読むとどちらも記載されているので、好みでよいのだと思う。

pubs.acs.org/paragonplus/submission/acs_nmr_guidelines.pdf